



山形中学東京同窓会だより 山形東高東京同窓会だより



ふるさと
探訪

山寺のシシ踊り(山形市)

山寺(宝珠山立石寺)は、歴史と祈りのお山。芭蕉を感嘆させた景勝地である。国内はもとより、海外からも多くの観光客で賑わっている。

千余段の石段を登ると玉の汗が噴き出る。五大堂で涼風を受け、澄み切った青空、奥羽連山の景観に気分爽快となる。奥の院の阿弥陀大仏を参拝するとき、心洗われ、ひろい、ひろい心、佛心が湧いてくる。

平成25年に根本中堂本尊「薬師如来」の50年に一度の御開帳を迎えるにあたって、山寺の歴史・文化を学ぶ「山寺学講座」が開かれた。その内容は、円仁和尚が開かれた学問修行のお山、芭蕉が訪れて文学のお山に、いま心を癒すお山山寺、慈覚大師円仁の終の住処山寺、山寺開山戦勝を語る磐司祭、山寺とシシ踊り、山寺夜行念仏などである。

山寺は、磐司磐三郎が狩猟を行い支配していたという。大師が、東北巡錫で山寺を佛の浄土としたいと譲渡を申し出ると、磐司磐三郎は快諾し、秋田のマガノの里、阿仁に移ったとされている。大師が全山を殺傷禁断としたので、鳥獣らは喜び感謝しお礼に参上したところ、大師は磐司のお蔭、お礼は磐司にと論じたという。それでシシ達は、磐司磐三郎の

祠の前で舞ったのが磐司祭の起源である。

旧暦7月7日の祭りには、近隣の村々からシシ踊りが奉納されるようになった。磐司と大師の対面、感謝のシシ踊りの場面には、小学校の全校劇「山寺物語」となり、文化祭で演じられ子供たちにも受け継がれている。全国各地のシシ踊りは、死者と向き合う鎮魂供養芸能であるが、山寺では開山伝承と結びついている。

立石寺には、大師のお骨が納めてあると伝えられる入定霊窟があり、金棺の中に大師の木造の頭像と五体の遺骨が入っていた。大師のお骨であれば、立石寺が大師の開基であり終の住処となるが、確定されず謎となっている。

無形文化財、山寺夜行念佛の声明は、大師が入唐、五台山で学び持ち帰ったもので、空也上人らによって庶民信仰として発展したとされている。

山寺の歴史書の多くは、慈覚大師円仁、立石寺が中心になっている。その論述は、史実として確定困難で、伝説といかに結合させるかという希望的推測で述べられていると評する人もいる。歴史とは、概してそんなものかもしれない。

東京同窓会の皆様、御開帳には、ぜひ、山寺において下さい。

写真・文 伊澤友明(山東18回)

東京同窓会 総会・講演会は7月7日

東日本大震災の被災者にみなさまの暖かい義援金を

執行役員会は、4月5日(火)18:30から(財)マイクロマシンセンターの会議室で行われ、平成22年度事業報告・決算案、平成23年度事業計画・予算案等が審議されました。

また、東日本大震災について義援金を募金しようと決定しました。この未曾有の大震災に対して東京同窓会としても何か支援しようと思います。ぜひ、皆さまも会費納入とともに義援金を寄付して下さい。募金方法の詳細は、<http://homepage2.nifty.com/uzen33/bokin311/>をご覧ください。

総会・講演会のご案内

日時 平成23年7月7日(火)

総会 : 17:30~18:20

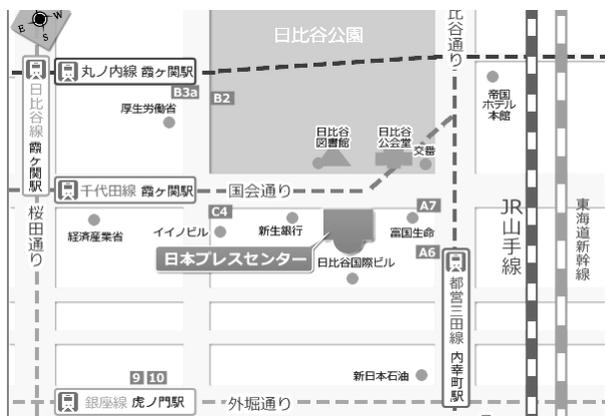
講演会 : 18:30~19:30

交歓会 : 19:40~20:40

講演者 石澤 靖治(インザワヤスル)氏

学習院女子大学長
 1957年生まれ。県立山形東高等学校卒業(山東26回 互一会)。
 立教大学卒業後、週刊ダイヤモンド記者。ハーバード大学にフルブライト奨学生として留学。帰国後、ワシントンポスト極東総局記者、ニューズウィーク日本版副編集長を経て現職。博士(政治学)。米国政治、日本政治、メディア等に関する著書多数。TVコメンテーターなども。

会場 日本プレスセンタービル10階ホール
 千代田区内幸町2-2-1



第三回若手交流会

「イタリアンとワインの夕べ」

松本義憲(山東20回)



両手に花 ウラヤマシー

この頃は、冷蔵庫を開けると買った覚えのないピータンが三個も四個も転がっていたりする。ボケて、物忘れがひどくなっているのだ。あれは確か1月28日、午後6時30分、いつもよりも早く若手交流会が始まった。場所は銀座八丁目、さんざん迷ったから正確には言えない。でも地下に降りた記憶がある。店の名前ね、それはええと、あのう、と考えていたら参加した方から教えられた。RIGORETTO KITCHENらしい。参加者は、学生さんを含め20代30代の若い皆さん、それとありがたいことに奥田先輩、鈴木礼子さん(粹な和服姿でしたぞ!)、読売新聞の鈴木さんにご来賓頂いた。梅津庸成さんも駆けつけてくれ総勢20名ばかり、賑やかな会になりました。飲み、かつ食い、喋り説教し、噂し、言葉にもワインにもイタリアン・フードにも酔っぱらいました。「おゝ勝利」は歌えない。高歌放吟はご法度の銀座店、でもつく

づく「いいなあ」と思います。この交流会は若い元気がいっぱい貰えるからね。嘉規さんのおかげです。深謝、深謝。次も盛大にいけますぞ。

山形で還暦を祝う会

— 於：蔵王国際ホテル —
白石雅美（山東19回）



鵬雲会（第19回 昭和44年卒業）の会員は60歳の還暦を迎え、まだ社会の一線で活躍中の人も多のですが、大半が第2の人生を歩み始めたと思われま

す。一昨年より、山形在住の会員を中心に還暦を祝う会の企画が進められ、昨年9月25日に同期の伊藤（旧姓河田）明美さんが女将を務める郷里の蔵王国際ホテルで挙

4名の恩師もご参加

会には、恩師の小和田先生、高橋（海老名）先生、太田先生、元木先生にもご臨席いただき、総勢60名を超える参加者でした。

毎年山形で行われている新年会や、東京での同窓会ではめったに会う機会がない友人達とも久しぶりで旧交を温めることができました。

40年以上経っても顔つきや話し方など、当時の雰囲気そのままの人や、あれっ、だれだっけ??と思うような人など様々で、自らの高校時代を思い起こすとともに時の流れを感じる楽しくも懐かしいひと時でした。

おお勝利で一次会はお開き

会は佐々木啓仁君の司会、進行で始まり、校歌斉唱（指揮斎野五兵衛君）、発起人代表挨拶（伊藤吉明君）、祝辞（小和田先生）、乾杯（佐藤松兵衛君）、恩師のスピーチ、と進み、最後はおお勝利（音

頭 榊寿一君）で一旦お開きとなりました。

幹事、女将の粋な計らいで部屋を変え無制限飲み放題しかも夜食付きの2次会へと進み、夜も更けて記憶も怪しくなったところに散会となりました。

翌日は清々しい蔵王の空気を吸い、温泉街を散策して名物の稲花餅などを買い求めて蔵王を後にしました。

還暦会が山新に掲載

後日、この還暦を祝う会の様子は、滝口義則君の投稿で写真とともに12月4日付の山形新聞夕刊同窓会特集に掲載されました。

この会を企画し実行してくれた幹事の皆さんには次の古希の会を期待しつつ、心より感謝と御礼を申し上げます。

また、この同窓会だよりをご覧の皆さんも同窓会関連行事には気軽に、かつ積極的にご参加いただければ、同窓会もその価値を発揮できるものと確信する次第です。

東京東音会合唱団演奏会のお知らせ

東京東音会合唱団の演奏会が以下の通り開催されます。ぜひ、皆さまお誘いの上お出かけください。

日 時 平成23年6月5日（日）14:00

会 場 浜離宮朝日ホール

都営大江戸線「築地」駅そば

入場料 1,500円

会費+義援金納入のお願い

会費3,000円+義援金2,000円
コンビニからの振込もできます

東京同窓会は、会員の皆様の会費によって運営されています。また、今年度は、東日本大震災の被災者に対し、2,000円の義援金を寄付する事といたしました。ぜひ、同封の振込用紙で会費3,000円と義援金2,000円をご納入ください。

納入方法は、コンビニからも振込むことができます。また、これまでどおり、「ゆうちょ銀行」も利用できます。金額を訂正するときは、「ゆうちょ銀行」をご利用ください。

ぜひ、ご協力のほどお願いいたします。

◇平成 22 年度(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)事業報告(案・要旨)

総会および講演会 平成 22 年 7 月 8 日 プレスセンター	総 会:17:30～ 21 年度事業報告・決算、22 年度事業計画・予算、会則変更他 講演会:18:30～ 劇作家・女優 渡辺えり氏(山形西高卒) 交歓会:19:40～ 立食パーティー(85 名参加)
懇親会 平成 22 年 11 月 26 日	会 場:東京ドームホテル、参加者 232 名 幹事期:四六会(山東 21 回)、慧琥会(山東 36 回)
会報「同窓会だより」	第 60 号(22 年 5 月)、第 61 号(22 年 10 月)
ネット交流活動	東北関東大震災交流掲示板設置、ニューズレター 2 回配信、若手交流会 2 回実施
母校への支援協力	東京同窓会賞、松田杯、駒草杯の贈呈
会議等の開催	執行役員会(5 回)、役員懇談会(東日本大震災により中止)
各種委員会	総務、企画、広報、HP、交流など各種委員会定着、運営の中核的役割発揮

◇平成 22 年度(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)決算(案・要旨)

1. 一般会計

<収入の部>

(円)

科 目	決算額	予算比増減	前年実績比増減	摘 要
前年度繰越金	404,163	0	-100,084	
年会費	2,128,000	-62,000	-33,000	会費納入 706 名
講演会等収入	398,000	-2,000	-119,000	講演会 95 名、交歓会 85 名
懇親会収入	2,151,500	1,500	-176,500	232 名(予算比 12 名増)
その他の収入	162	162	-70,146	前年:懇親会実行委員会寄付 7 万円
計	5,081,825	-62,338	-498,730	

<支出の部>

(円)

科 目	決算額	予算比増減	前年実績比増減	摘 要
総会・講演会費	616,193	16,193	9,006	講師料 10 万円他
懇親会費	2,188,225	38,225	-174,485	収入減と連動
会報発行費	1,573,331	-76,669	-159,987	印刷費・発送費の節減
母校協力費	45,750	0	0	東京同窓会三賞
会議費	0	-30,000	-28,105	役員懇談会中止
諸会費	104,120	12,240	-60,980	山形同窓会総会・卒業式他
雑費・ネット交流費	123,244	-106,756	-110,978	通信費等削減
予備費	0	-30,000	0	
次年度繰越金	430,962	114,429	26,799	
計	5,081,825	-62,338	-498,730	

2. 特別会計

(名簿作成積立金)

<収入の部>

(円)

科 目	決算額	予算比増減	前年実績比増減	摘 要
積立金	800,000	0	0	前年から繰越残高

<支出の部>

(円)

科 目	決算額	予算比増減	前年実績比増減	摘 要
積立金	0	0	0	支出なし
次年度繰越金	800,000	0	0	
計	800,000	0	0	

◇平成23年度(平成23年4月1日～平成24年3月31日)事業計画(案・要旨)

総会および講演会 平成23年7月7日 プレスセンター	総 会:17:30～ 22年度事業報告・決算、23年度事業計画・予算、役員改選他 講演会:18:30～ 学習院女子大学学長 石澤靖治氏(山東26回・互一会) 交歓会:19:40～20:40
懇親会 平成23年11月25日	会 場:東京ドームホテル ※チャリティーイベントを開催 幹事期:主一会(山東22回)、鴻紀会(山東37回)
会報「同窓会だより」	第62号(23年5月)、第63号(23年10月)
ネット交流活動	うぜん 33 交流掲示板、各種サイトの運営による会員交流の拡充
母校への支援協力	東京同窓会賞、松田杯、駒草杯の贈呈など
会議等の開催	執行役員会(原則隔月・メールによる会議(御時)、役員懇談会など
各種委員会	義援金特別委員会の支援、学生・若手交流会、会費納入促進など
義援金募金活動	東日本大震災義援金特別委員会の設置、活動の推進ほか

◇平成23年度(平成23年4月1日～平成24年3月31日)予算(案・要旨)

1. 一般会計

<収入の部>

(円)

科目	予算額	前年実績比増減	摘要
前年度繰越金	430,962	26,799	
年会費	2,130,000	2,000	会費納入会員710名(前年706名)
講演会等収入	400,000	2,000	総会80名、講演会80名、交歓会80名
懇親会収入	2,150,000	-1,500	参加者220名を想定(前年232名・前々年245名)
その他の収入	0	-162	懇親会実行委員会寄付の減
計	5,110,962	29,137	

<支出の部>

(円)

科目	予算額	前年実績比増減	摘要
総会・講演会費	600,000	-16,193	会場費、議案書作成費、講師料他
懇親会費	2,150,000	-38,225	
会報発行費	1,600,000	26,669	5月号、10月号の制作・発行
母校協力費	45,750	0	東京同窓会三賞の贈呈
会議費・諸会費	134,120	30,000	前年:役員懇談会中止
雑費・ネット交流費	160,000	36,756	
予備費	30,000	30,000	
次年度繰越金	391,092	-39,870	
計	5,110,962	29,137	

2. 特別会計

(名簿作成積立金)

<収入の部>

(円)

科目	予算額	前年実績比増減	摘要
積立金	800,000	0	繰越残高

<支出の部>

(円)

科目	予算額	前年実績比増減	摘要
積立金	0	0	支出予定なし
次年度繰越金	800,000	0	
計	800,000	0	

(東日本大震災義援金)

<収入の部>

(円)

科目	予算額	前年実績比増減	摘要
義援金	2,000,000	2,000,000	

<支出の部>

(円)

科目	予算額	前年実績比増減	摘要
義援金	2,000,000	2,000,000	募金額をそのまま拠出

『山形県人の心の温かさを広げよう つや姫、モンテディオ山形、故郷の未来へ活力を!』

**実行委員長
武田浩三（山東 21 回 四六会）**



吉村美栄子山形県知事

渡部泰山校長

「山中・山東東京同窓会 2010 懇親会」が、11 月 26 日に開催されました。

ふるさと山形から吉村美栄子山形県知事を始め、母校山東の渡部泰山校長、山東同窓会の鈴木寛会長、その他大勢のご来賓をお迎えし、盛大に開かれました。

来賓の 1 人であるモンテディオ山形の川越理事長が、チームの来年のさらなる飛躍を願って、盛り上がったプレゼンを披露されました。

当番幹事は、四六会と彗琥会

当番幹事学年は、昭和 46 年卒四六会と昭和 61 年卒彗琥会、特別に昭和 62 年卒鴻紀会も協力して下さいました。幹事団総勢 37 名。



実行委員長の挨拶

幹事達が、1 年近く前から準備を重ねた努力がようやく実って、今回ご来賓を含む参加者数は 230 名、最近では昨年に次ぐ大盛況でした。

参加者の顔ぶれは、昭和 24 年卒のふたば会の大先輩から、平成 20 年卒重友会の学生諸君まで、幅広い年代の同窓会員に参加していただきました。

読売新聞記事、ブログ、メール、さらにミキシーなどを活用し、若い世代の同窓会員の勧誘に力を入れました。

その結果、平成元年卒以降(20 代~30 代)の参加者は 22 名(学生 16 名)と例年になく学生の参加者が増えました。

また、かわいいお子様連れで参加された子育て中のママ会員もいらっしゃいました。今後、子育て中のママ会員の参加が活発になっていくことでしょう。

交流テーブルで先輩後輩の交流も

前回から始まった「交流テーブル」も再登場です。

若い世代と先輩達との交流を活発にすることが目的でしたが、学生の参加者が増加しつつあり、今後も継続すべき企画と思われます。

各業界の先輩達をテーブルに配置しましたが、学生より化粧品業界の人なども求められ、幹事が右往左往する場面もありました。

至らない点もありましたが、先輩後輩の交流は大いに深まったと思います。

イベントはエバリーの演奏



エバリー（3 人しか映っていませんが）

イベントの部では、4 人のミュージシャンで結成されているエバリーが、バイオリン、チェロ、クラリネット、ピアノでクラシック、ポピュラーの演奏を披露してくれました。

そして、東音会の衰えることのない見事なハーモニーが会場に響き渡りました。



つや姫大使 佐藤唯さん
つや姫レディ 丹波路子さん

さらに、今年は関係者のご好意で、つや姫大使の佐藤唯さん、つや姫レディの丹波路子さんが応援に駆けつけて下さいました。

司会者とつや姫大使との山形弁トークも絶妙で、会場に大きな笑い声が響きました。

お土産を手渡すと、親の介護のために直ぐに帰宅する幹事がいました。2次会の途中で、仙台や新潟に最終の新幹線でとんぼ返りをする幹事もいました。しかし、誰もが、再会の感動と、同じ故郷を持つ同士が感じる郷愁と温かさを胸に抱き、明日への勇気を得て、それぞれの生活に戻りました。忘れがたい時間でした。

懇親会を通じて、山中・山東東京同窓会の親睦が益々深まったと確信いたします。関係者の皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。

今回は、学生、若年者、子連れの出場者の会費割引を決めました。若い人達の出場者を増やそうとする活動は、次回の幹事である主一会、鴻紀会の皆さんにも引き継いで頂きます。



次回幹事の主一会 鴻紀会の皆さん



司会と応援団長兼務の大沼氏(誓魂会)

お土産は、つや姫 1kg でした。つや姫レディが、帰宅する参加者一人一人につや姫を手渡して下さいました。皆さんのうれしそうな様子に、幹事一同、急に緊張が緩んでほっとした気持ちになりました。



忘れません 真夏の青空の下、肩を組み汗だくになって歌ったおお勝利



明日に向かって総勢 230 名の元気な笑顔です

山形市出身の大和算家

會田 安 明

小林 正幸（山東 15 回）

中国の数学を引き継いで江戸時代に日本で独自に発達した数学—和算—。その和算家として、**関孝和**(せきたかかず 1640 頃～1708)は日本史の教科書にも登場するので有名であるが、**會田安明**(あいだやすあき 1747～1817)と**安嶋直円**(あじまなおのぶ 1732～1798 江戸詰の戸澤藩[新庄藩]士)の名はあまり知られていないのではないだろうか。それも、我が郷土、山形県に縁のある大和算家であることは。



山形市滑川・禪昌寺の石碑

會田安明は延享 4 年 2 月、出羽国山形城下(現在の山形市七日町の大沼デパート付近)に生まれた。幼名を重松(じゅうまつ)という。彼が数学の道に入るきっかけは、9 歳(数え、以下同)の時にもらった九連環という知恵の輪を一晩で解決したことだと自ら述べている。

少年時代は将棋や角力、けんかも滅法強かったが、16 歳の時山形市十日町にあった岡崎安之の居合と棒術、算術の道場へ入門する。算術では二百日程で皆伝を得てしまい師範代になったという。

明和 6 年 9 月 23 歳の時大発奮し江戸へ出る。父親の本家である内海家からもらった金で旗本の株を買って鈴木清左衛門の養子となり、名を鈴木彦助安旦(やすあき)と改める。御普請役として鬼怒川・下利根川などの川々の見分を務めるが、天明 7 年 41 歳の時思いがけない出来事から御役御免となり浪人する。

それは前年の十代将軍家治死亡による家斉への御代替りによる影響であった。しかし會田はこのことを「予が深願をあわれみて、天より閑暇を賜りしもの也。故に予生涯の本望を達すべき時いたりしゆえ、天を拝し、地を拝して大きに悦び、是より日夜少しも、おこたりなく、数学の道をはげみし也」と喜んでいる。

以上のことは會田 61 歳以降の著と思われる自叙伝『自在物談』に載っている。これは、彼の幼少のころから御普請役を辞めさせられた時までの山形での遊びや山形の人々の生活、江戸での仕事の状況などを記したもので、現在は山形市前明石の内海家に保存されている。筆者も昭和 50 年に拝見している。

以後は、晩年には歩行困難になるほど一心不乱に学者生活を送ることになるのだが、彼の名を世間に知らしめ、同時に数学への関心を持たせたのは、関流の和算家で名教科書『精要算法』を著した**藤田貞資**(ふじたさだすけ 1734～1807)との 20 年余にも及ぶ論戦だった。

この藤田の名著に刺激された 35 歳の會田は、芝の愛宕山に算額を奉納し、同僚で藤田の高弟**神谷定令**を介して弟子入りを請うたが、愛宕山の算額の誤りを指摘され、人一倍負けず嫌いの性格が『精要算法』の批判本『改精算法』(天明 5 年刊、會田 39 歳)を書かせることになったのである。

神谷はこれに対して『非改精算法』を著したため、會田は出身地の最上に因んで**最上流**(関流を超えているという思いから「さいじょうりゅう」と読ませるのが普通)という流派をつくり孤軍奮闘を続けた。[斯波兼頼が南北朝時代に北朝方の羽州探題として山形の地に入部した時、当地の地名をとって名字を最上と名乗ったということから、山形市街地は、平安期よりこの頃までは最上郡最上郷と呼ばれていたという。]

會田が浪人となつてからは再び會田姓に復し、名を**安明**、通称を**算左衛門**、字を子貫と言ひ、自在亭と号した。

會田の数学は独創性という観点からみれば、藤田の兄弟弟子でもある安嶋直円の上には出ないようで、むしろ数学教育家と言つた方が当たつてゐるという。

安嶋は、我が国で初めて今日で言う二重積分の領域に到達した人であり、また対数表の作成や三斜三円術(三角形の2辺ずつに接し、かつ互いに外接する3円の求径問題—1803年にイタリアのMalfattiが提示した問題と本質的に同じなので、安嶋が世界初と思われる—)の解法などを行っている。

會田は、しかし、数学はもとより多岐の知識に精通し、遺した著作は文化6年作の『算法伝書目録』によれば1300余巻、うち非算書は『日本国史略』など200巻で、刊行した数学書は8種である。伊能忠敬とも交流があり、次男の渡邊慎は伊能の身の世話をした弟子であった。

會田の数学に対する根本的精神は、「通術」という共通な一般的法則を求めてこれまでの学理を体系的に簡單化することであつた。また、「貫通術」と呼んで図形問題を拡張して一般的性質を発見したり、結果へ導く方法に独特の工夫を図つた。



山形市立図書館前の胸像

會田の数学の業績をいくつか紹介する。

- ① **天生法**(會田の自称)の創設 関孝和が創始した**天竄術**(てんざんじゅつ。我が国初の筆算による代数学)を改良したもので、特徴の一つは、関流では避けていた除数に未知数が含まれる場合の計算法を編み出したことである。すなわち分方程式の導入で、18歳の頃という。また、等号を導入して代数式と方程式の区別をつけたのも長所である。
- ② 対数表の作成 対数表は我が国へは1700年代に外国から入ってきており、安嶋も特殊な対数表を作っているが、會田のは2を底とする対数表から常用対数を得るという手法で、和算研究家の遠藤利貞は、安嶋のと比較して大いに優れるところありと称賛している。
- ③ 零約術の研究 平方根を近似分数として表わすのに、新しい方法と規則を示した。
- ④ 綴術(てつじゅつ)の研究 累乗根の計算における無限級数展開の公式を、新しい方法で導いた。
- ⑤ 本格的な数学の良教科書『**算法天生法指南**』を著す。文化7年。64歳。天生法の研究成果のうち、幾何図形の問題を5巻にまとめたもので、以降の和算の研究と教育に多大に貢献した。

會田は晩年、郷里に帰ろうと大方の算学書類を内海家に送っていたが、文化14年10月浅草で没した。享年71。墓は本所の即現寺にあったが、関東大震災で焼けたため芝公園の**金地院**墓地へ改葬された。**浅草寺境内**には、三回忌に門弟と子孫によって**算子塚**(會田が愛用した算木を埋めたもの)が建てられ、「會田先生算子塚銘」と刻された石碑がある。

山形市においても、一周忌の文政元年に滑川の**禅昌寺**に弟子等により石碑が造立され、没後百年記念として大正5年に十日町の**実相寺**の會田家の墓地に會田光榮により墓碑が建立されている。表に「數學院殿無量自在大居士」と刻されている。また、昭和55年に小荷駄町の**山形市立図書館**前に山形ロータリークラブにより胸像が寄贈された。

没後百年祭が大正5年10月に、百五十年祭が昭和41年9月にそれぞれ七日町の**長源寺**で行われた。

東京同窓会三賞決まる

東京同窓会から母校在校生に贈られる三賞が決まりました。**東京同窓会賞**は、加賀康介君、**駒草杯**は、放送部の奥山舜一郎君、**松田杯**は、サッカー部にそれぞれ贈られました。東京同窓会に届いたお礼状をご紹介します。

部活動と学習の両立を実践

東京同窓会賞

加賀康介 (山東 61 回)

この度は、東京同窓会賞を授与していただき、諸先輩方には心より感謝申し上げます。

これも、今日までご指導して下さった先生方をはじめとする多くの方々の支えによるものと感じております。



私にとって、三年間の高校生活は、部活動と学習の両立を実践する密度の濃いものでした。その生活の中で、「自分を律すること」、「人とのつながりを大切にすること」、「仲間と切磋琢磨すること」の三つを常に念頭においてきました。それらのことが、自分を大きく成長させてくれました。

大学では、法学部で世の中の仕組みとルールを学び、より多くの方が豊かに暮らすために力を尽くしたいと考えています。

また、東京での大学生活で視野を広め、人間的にもさらなる成長を目指していきます。

この賞をいただいたことに誇りを持ち、山東で学んだものとして日々精進します。

私は気高き駒草になりたい

駒草杯

奥山舜一郎 (山東 61 回)

この度、駒草杯という名誉ある賞をいただき、

大変光栄に思っております。これもひとえに支えて下さった多くの方々のおかげです。

駒草杯受賞者という名に恥じぬよう、これからも精進してまいります。

一年半にわたる私の放送活動が、こうして歴史と伝統ある山形東高校の偉大な先輩方に認めていただけたことは、私のみならず故郷・新庄の親戚一同の喜びです。

山形東高校と、母校の発展に長年にわたり寄与されてこられた東京同窓会の皆様に心より御礼申し上げます。

さて、昨今、AKB48に代表される、自分と同年代の方々の活躍を目にしますと、私も現状に甘んじてはいけなかつつく感じます。

男としてこの世に生を受けたからには、国家の運命雄々しく負わんという気概を持ち、大業を成し遂げることこそ、お世話になった方々への恩返しと心得ます。

是非、奥山舜一郎という名を目になさいましたら、お引き立てのほど宜しくお願い申し上げます。



県総体 準優勝

松田杯

サッカー部前主将

三沢孝祐 (山東 61 回)



この度は、松田杯という栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。

われわれサッカー部は、顧問の先生の指導のもとではありますが、部長（主将）が練習を計画・指揮するという自主性を重んじる部の伝統を守り、活動してまいりました。

この度、受賞しましたのも、先輩方が築き上げてきた有形無形の伝統の力に負うところが大きいと、改めて先輩方への感謝の気持ちが湧き起こった次第です。

さて、平成22年度のサッカー部は、最大の目標である「県総体優勝、インターハイ出場」を目指し、決勝まで順調に勝ち上がりましたが、あと一步のところまで涙をのみました。

悔いが残らないと言ったら嘘になりますが、準優勝という結果も意識の高い練習によるものと胸を張って言えます。

今後われわれ卒業生は、部活動によって得た経験をもとに、様々な分野で活躍する所存です。

後輩たちは、活動が多くの人に支えられていることに対する気持ちを忘れず、来年度こそ悲願達成して欲しいと思います。

新校長ご紹介

平成23年4月度より、山形東高校に新校長（第41代）が赴任いたしました。

- 氏名 柳谷豊彦（やなぎや とよひこ）氏
- 略歴 山形県立新庄北高等学校 卒業
山形県教育次長

<編集後記>

3月11日（金）14:46、M9.0の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生した。歴史上の大災害となり、殆どが津波による被災であった。被災した人たちには、ここに謹んでお悔やみを申し上げます。

まだまだ、M7前後の強い余震が頻繁に発生しており、被災した人たちの神経には、かなり堪えているのではないかと心配である。

私たちが支援できることは数少ない。しかしながら、被災した人たちの心情を思いやりながらも、以前どおりの生活を続け、被災地の物産品を購入することが、被災した人たちへの最大の支援になるのではないだろうか。（K. M）

平成23年度 大学合格状況(延人数)

	大学名	現役生	過年度	合計
国	北海道	4	0	4
	山形	18	9	27
	東北	46	9	55
	筑波	1	0	1
	千葉	10	1	11
	東京	4	4	8
	東京外国語	2	1	3
	東京学芸	2	0	2
	東京工業	0	0	0
	一橋	0	2	2
	新潟	16	3	19
	京都	1	0	1
	その他	23	11	34
	計	127	40	167
公立	福島県立医	1	2	3
	その他	4	2	6
	計	5	4	9
私立	青山学院	3	2	5
	慶応義塾	2	8	10
	中央	7	12	19
	東京理科	1	9	10
	法政	6	8	14
	国際基督教	0	0	0
	順天堂大	0	0	0
	芝浦工業	4	2	6
	専修	1	3	4
	自治医科	3	0	3
	東京女子	6	2	8
	明治	15	22	37
	立教	5	5	10
	早稲田	13	17	30
	その他	36	38	74
計	102	128	230	
合計	234	172	406	

2011年 山形中学・山形東高 東京同窓会懇親会のご案内

東日本大震災チャリティ懇親会の予定です。

みなさま、お誘い合わせの上、ぜひ、ご参加ください。

■日 時 2011年(平成23年) 11月25日(金) 午後6時半から
※ 開始時刻を例年より30分繰り下げる予定です。

■会 場 東京ドームホテル「天空の間」
文京区後楽1-3-61



■会 費 10,000円(ご家族は半額)
若年者は特別割引があります。
詳しくは10月発行の「東京同窓会だより」をご覧ください。

■幹 事 主一会(山東22回) シニア幹事
鴻紀会(山東37回) ジュニア幹事

※東京同窓会ホームページもご覧ください。 <http://www.uzen33.net/>

山中・山東 東京同窓会 第62号

発行:平成23年5月1日 千代田区平河町2-6-3 山形県事務所内

発行人:青柳桂一

編集:前田好二